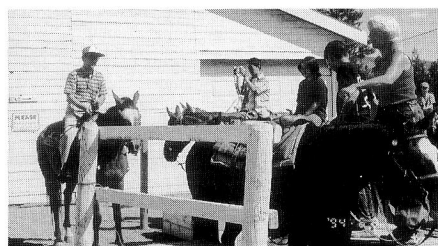




平成13年(2001年)11月

宇治市中学生カムループス市訪問団

任期は、十一月十日から平成十五年三月三十一日です。今後の国際交流推進のためにどうぞよろしくお願いします。



の
と
信
じ
て
い
ま
す

「訪中」短歌紀行

訪問団員 吉田 明さん

平成十三年十月十五日、市役所一階ロビーにて、市長・市幹部・多くの市民に見送られて、咸陽市との友好盟約十五周年記念公式訪問団が元気に出発した。

三回目 訪中の旅 天高く

平和を願う 友好親善

小生は三回目、秋晴れの中、一路名古屋空港へ…。

夜遅き 西安空港 食事まで

熱き歓迎 十五周年

宿泊のホテルには食事が用意されていて、機内食を食べた人は、新鮮なキュウリをかじって、しばしくつろぐ。

黄土をば 緑の森に 地球にと

村人達も 総出の集い

「黄土高原植林緑化事業推進協議会・咸陽の子どもたちに本を贈る会」の方々と一緒に植林。

劇場の 舞台せましと 歓迎の

歌とおどりを 市民と共に

市庁舎への表敬訪問の後、ブラウン

管工場内の劇場で多数の市民と共に、この日のために、練習を重ねた演技の数々…。

校章に つぶらなひとみ 輝きて

祝賀の儀式 爆竹の音

ぬかる道 リンゴ畑や 麦畑

横穴住居 たくましき民

歓迎の 食事次々 三十種

気持判れと 我ら小食

はしも付けずに、しばしながめるだけ…。



行政関係者、本を贈る会の方々と

別れて北京に入り、故宮博物館を足早に済ませて、明日は「承德」へ朝六時出発だ。

承德に 列車四時間 汽車の旅

乗務員まで 物産販売

皇帝の 避暑山荘に 日本軍

半世紀後の 我ら恥かし

皇帝の 夢と軍事の 山荘に

民の 労苦と 広大な土地

承德の 自由市場に 品多く

庶民の 胃にも 安くあふれり

この自由市場の活況振りは、行政関係者にぜひ見せてあげたいとの意見あり。

食材の豊富さ、安さ、甘いみかんが、五百円で一・三元、日本円で十八円。

はぐれないように前後を見ながら、色々買って試食。

再び北京へ。列車四時間の旅、退屈しのぎに車内販売相手に値切り交渉。

民衆の 血と汗による 長城が

観光メッカ 民をうるおす

人力車 千円なれど すぐに着き

おまけに復路は チップねだられ

日曜日と重なり、季節も天気も最高



で、万里の長城は、満員電車並、急な坂道で事故が起きないかを心配。

天安門 あの痛ましき 過去あれど

世界の元首 迎える警備

雨降れど 名古屋空港 ほっとして

笑い明るく 眠りも深し

夢さめて 現実見れば 炭疽菌

新聞つもり 回覧板も

全員元気に帰国。関係者各位に心から感謝申し上げます。

スモーキー・マウンテンに住む子どもたち フィリピン・パヤス地区 スタディ・ツアー

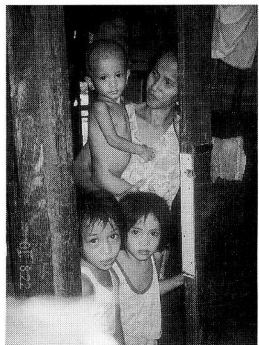
宇治国際交流クラブ 伊勢村紀久子さん

この夏CFFC（フィリピンの子どもたちの未来のための運動）主催のフィリピンへのスタディ・ツアーに参加した。今年の六月中旬に上映された「神の子」を見に行った時に、配られたチラシの中に、スタディ・ツアーへの参加のお誘いが載っていたのである。映画を見た人は全て、大きな衝撃を受けたであろうが、私はこのお誘いを見て、是非行かなければという衝動に駆られたのである。

* * * * *

「神の子たち」は、1995年に四ノ宮浩監督が撮った「忘れられた子供達／スカベンジャー」（スカベンジャー：ゴミを拾って生活する者）の続編または姉妹編のようなフィルムである。この舞台であるゴミ捨て場「スモーキー・マウンテン」は、フィリピンの「貧困の象徴」であるという理由から、1995年11月に政府により完全に閉鎖された。その後、今迄捨てられていたゴミは、ケソン市のパヤスゴミ捨て場に捨てられ始めた。四ノ宮浩監督は、このゴミ捨て場を取材中、子供達の多くが障害を持って生まれている事に気付き、かれらを撮ることで、その過酷な現状を世間に伝えたいと考えたのである。

そんな中、クランクイン直後の2000年7月3日からケソン市に台風による大雨が降り続き、7月10日に、事故が起こったのである。大雨の影響によって地盤が緩み、



ゴミの山が崩れ落ちて、住民達の家が下敷きになり、多くの住民が生き埋めとなった。500

世帯以上のスカベンジャーが彼らの家、生活の糧、財産をなくし、234名の死亡が確認され、85名が未だに行方不明で、ゴミの下に埋まっている。そして、事故の再発を恐れて、政府はパヤスのゴミ捨て場を閉鎖した。生活の糧であるゴミが搬入されなくなって途方にくれるスカベンジャー達、映画はゴミ崩壊を含めたショッキングな現状をありのままに映し出している。あとは映画を見て、みなさんで考えてほしい。

* * * * *

スタディ・ツアーでは、CFFCの援助によってパヤスのゴミ捨て場、スモーキー・バレー（煙の谷）のコミュニティに建設されたデイケア・センターの2階に宿泊しながら、地域の学校、教会、集会所、個人の家、人々の生活、そしてゴミ捨て場を見てきた。豊かといえるのかどうかは疑問だが、少し余裕がある家は、ブロックできちんと囲ってあるが、貧しい家は、ほとんどどの家も、トタンで囲っただけの家で、雨が降れば隙間から吹き込んでくるような建物で、屋根もトタン屋根だった。地面にはピクニック・シートが敷いてあるだけで、家具もなにもない。台所といっても、ガスコンロも水道もない。電気代が払える家庭には、電気が引いてあり、ラジオやテレビがある家庭もあった。水道はなく、川の水は、目と鼻の先にあるゴミ捨て場のゴミの汚染により、黒く濁っていて飲料水には適しない。それ故に、地域の住民はポリ容器に水を購入して、飲料水として使用していた。その購入する水さえ汚染の心配があり、私達慣れていない者は、沸騰した水以外は飲まないように言われていた。勿論お風呂もトイレもない。お風呂は、水浴び、または雨が降った時に、石鹸を使いながら雨で汗を流



すのである。しかし彼らはとてもきれい好きで、いつも洗いざらしではあるが清潔な服装をしていた。

パヤスのコミュニティの小学校を訪問したが、学校施設が足りなくて、どのクラスも1クラス60人から80人の生徒が押し込まれていた。しかし子供達は、とても純粋で、人懐っこく、みんな明るい。メトロ・マニラには、観光客にお金をせびる子供達がいるが、パヤスにはそんな子供はいない。勿論ゴミ捨て場のパヤスには、観光客は誰一人来ないのだが…。

メトロ・マニラの空気は、大量の自動車の排気ガスのせいで、非常に悪かったが、パヤスのコミュニティやゴミ捨て場の空気はきれいだった。メトロ・マニラは、マスクなしではとても息ができない、また汚染された空気の影響で頭痛がしそうな町だった。

スタディ・ツアー中一番困った事は、トイレとお風呂である。町へ戻り、レストランに入れば、ちゃんと洋式のトイレがあるのだが、パヤスのデイケア・センターには、洋式トイレの上蓋がない小さな便器があるだけだった。だから中腰である。むこうの人はどうして用を足すのだろうか。当然お風呂もない。CFFCとパヤス住民とのコーディネーターで、案内人のリサさんは、トイレで水浴びをしていたが、私達には出来なかった。

* * * * *

国際交流事業に長年関わってきて、最近ふと立ち止まる事が多くある。楽しい交流も勿論否定はしない。しかし世界には過酷な状況に置かれている地球市民が多く存在する。恵まれた私達にできる事が何かあるはずである。「神の子たち」を見て、それが何であるかを皆さんと共に考えてみたい。

今後の事業予定

お問い合わせは当協会事務局へ

映画上映会

今年度の啓発・研修事業として映画上映会を開催します。
上映映画：「神の子たち」
内容：舞台はフィリピンのマニラ首都圏のケソン市・パタヤス地区。ここにある「スモークーマウンテン」と呼ばれる巨大なゴミ捨て場で、ゴミを集めて暮らしを立てている人々の生活が描かれています。様々な問題を抱えるなか生まれる新しい生命、そして死。過酷な環境にありながらも、誇りを失わず、逞しく堂々と生きる住民たちの姿を克明に捉える

たドキュメンタリー映画です。同じ地球上で生きている人間として、私たちが普段気づかず、考えもしないでいる現実を知り、一体何ができるのか共に考えてみませんか？

映画上映の前に、実際にこのパタヤス地区に行つて来られた伊勢村紀久子氏に講演をしていただきます。

開催日：平成十三年十二月八日(土)

開催場所：生涯学習センター 第一ホール

上映時間：第一回上映・十四時、第二回上映・十七時

スリランカ料理教室・報告とご案内

～スリランカ友の会～

スリランカの家庭料理を実習し、食生活を通して国の文化や伝統を学び、交流を深めようと、9月21日に木幡公民館でスリランカ料理教室が行われました。

この日は、スリランカからの留学生を講師にお招きして、参加者と共にスリランカのカレーなどを味わいながら、スリランカについて語り合いました。

少し先になりますが、平成14年2月1日(金)にも、木幡公民館にて開催予定です。

詳しくは、1月発行の市政だよりをご覧ください。



整理券購入時にどちらをご覧くださいになるかお聞きます。

入場料：五百円

整理券：宇治市役所秘書課内、宇治市観光センター、宇治橋西詰め観光案内所、近鉄大久保駅前観光案内所で発売中。

なお、上映当日の生涯学習センターでの発売は行っていないのでご注意ください。

世界の料理教室

宇治国際交流クラブが宇治市政施行五十周年記念事業の一つとして実施します。食は文化です。外国の人に料理を習いながら新しい異文化を覚えましょう。

開催日：平成十三年十二月十六日(日)

開催場所：東宇治コミュニティセンター

開催時間：十時～十三時

定員：先着三十名(十二月十日までに)

内容：中国・インド・韓国料理

材料費：八百円

主催：宇治国際交流クラブ

お問合せ：宇治国際交流クラブ(電話：二三・三八〇〇)

森本さん)まで。

会費納入のお願い

平成十三年度の会費の納入をお願いします。当協会の運営は皆様の会費によって成り立っています。会の運営や活動を活発にするためにも、どうぞよろしく願います。

会費

個人会員 二千元

団体会員 五千元

法人会員 一万円

振込先

京都銀行：

宇治支店・普通預金

678459

京都中央信用金庫：

宇治支店・普通預金

3221035

*いずれも受取人は『宇治市国際親善協会』です。

雑観雑感

宇治市と咸陽市が友好盟約を締結されて十五年、この間には様々な交流が行われてきた。この度、二十一世紀の新しい

事業として、環境保全の面で「黄土高原植林緑化事業」という壮大な事業が発足された。

この事業は黄土高原の砂漠化をストップさせ、地球の環境悪化を防止するだけではなく、中日両国のさらなる発展を願って咸陽市永寿县の砂漠の大地に「宇治友好の森」と銘打たれたモニメントも設立された。

十月十六日の「起工式」には、訪中団五十四名が現地の多勢の村民達が見守る中で希望の苗木を心をこめて植樹した。

今後、市民レベルの草の根交流が広がり苗木と共に根を張り、枝をのび成長して二十一世紀を担う両国の新しい世代に引き継がれる事を、切に願うと共に親善の絆が一層強固になることを願いつつ帰途についた。